

ヨット愛好家が集う「第17回 SAIL おおつ」(京都新聞主催)が23日、大津市柳が崎沖の琵琶湖で開かれた。光り輝く湖面に無数の白い帆が立ち並び、セーラーたちが熱戦を繰り広げた。同レースは、大津市制100周年を記念して1998年から毎年開いている。戦前に建造されたクラシック艇から、最新鋭のレース艇まで多彩な種類のヨットが参加し、艇の種類ごとにハンディを付けて同じレースで競えるのが特徴。今年は滋賀県や京阪神から55艇79人が参加した。

沖合3カ所のフィを回る約6キロのコースで、参加者たちは、遠くの湖面の波の立ち方などを見て風の動きを予想しながら、巧みに帆を操って快走した。

一般の部は、ともに膳所高3年の土倉文子さん(18) 大津市と、蘆田陽菜さん(17) 湖南市とのペア、OPの部は平野小6年の藤原沙耶さん(11) 大津市が優勝した。

(川辺晋矢)

輝く湖面 帆走 SAIL おおつ



風を帆に受け、一斉にスタートするヨット(23日午後0時40分、大津市柳が崎沖)＝撮影・辰巳直中